



a-con
2009年事業報告書

action unit
for communicative NPO

2010年6月発行

● 団体概要	・ ・ ・	2
● 活動理念	・ ・ ・	3
● 沿革	・ ・ ・	4
● 代表挨拶	・ ・ ・	6
● 2009年活動報告	・ ・ ・	7
● 組織体制	・ ・ ・	13

わたしたち「a-con(えーこん)」は、
NPOのコミュニケーションをサポートするボランティアネットワークです。

がんばるNPOの活動やメッセージを、日本中にもっと伝えていきたい...
そんな想いとさまざまな能力を持ったメンバーが、日本のNPOのためにがんばります。
a-conは、規模が小さくとも熱意ある活動をしているNPOに対して、
「その活動が、どうやったら世の中にもっと伝わっていくか」というテーマを一緒に考え、
そのNPOに対する理解の促進や、支援者を増やしていくお手伝いをします。
メジャーなNPOだけではなく、少しずつ、世の中に「伝わっている」NPOが増えれば、
日本全体の非営利活動、ボランティア活動に対する理解がより深まり、
さらに多くのNPOが支援者、理解者を得てパワフルに活動できる基盤となります。

a-conは、そんな社会を目指し、日本のNPOがより活発に活動していくための
エンジンになりたいと考えています。

●団体名称

特定非営利活動法人NPOコミュニケーション支援機構
(Action Unit for Communicative NPO/NGO/a-con)

●活動開始

2007年8月活動開始

2009年12月特定非営利活動法人として活動開始

●会員数

a-conメンバー(メール会員数) 約200名

うち正会員23名、うち理事・監事5名

●機関誌 Monthly a-con (月刊)

営利企業の競争激化、公共サービスの縮小、また、先が見えず、リスク計算もしづらい現代において、非営利組織(NPO)が社会において期待されている役割はどんどん拡大しているといえます。

a-conがサポートする“NPO”は行政から認証を受けた組織だけとは限りませんが、参考までに行政から特定非営利活動法人の認証を受けたものだけを数えてみても、約40,000もの団体が、「社会を良くする」ために様々なフィールドで活動しています。(2010.3現在)

しかし、現在の日本では、ボランティア活動、非営利活動に対する認識がまだまだ浅く、「なんでやっているのかわからない」「気持ち悪い」とすら思っている人もいます。その結果、例えば寄付金の対象としても、ユニセフや、赤い羽共同募金など超メジャーな募金先や、災害時の緊急的な募金に集中する傾向があります。それゆえ、大多数の団体は自立した予算を持たず、行政からの補助に頼ったり、手弁当で細々と運営しているのが現状。自分たちの活動内容をきちんと社会に伝えることで、ボランティアという形での活動支援や、企業からのスポンサーシップを得ている団体は、数えるほどしかありません。

a-conは、規模は小さくとも、「自分たちの活動を社会に伝えたい」と考える団体に対して、「どのようにしたら伝わるか」一緒に知恵をしばります。a-conのサポートによって、少しずつ、実際に世の中からきちんと理解され、支援されるNPOが増えれば、日本全体の非営利活動、ボランティア活動に対する理解もより深まり、さらに多くのNPOが支援者、理解者を得てパワフルに活動できる基盤となっていくと考えています。

a-conは日本のNPO活動をより深めていくエンジンとなるようなユニットでありたいと考えています。



- 2007.8 ● a-con(仮)の準備会を登戸「巡庵」にて開催。参加者7名。
コミュニケーションをサポートすることでNPOをサポートすることを熱く語り合う
- 2007.12 ● 月1回 第3土曜日を定例会と定め、情報共有 & 意思決定の場とする
● NPOの「ナイスコミュニケーション」事例の収集開始
- 2008.2 ● 樹恩ネットワーク事務局でのミーティング
● a-conコミュニケーションツールを作成。第一段階としてmixiの使用を開始。
- 2008.4 ● 樹恩ネットワークとのアイデア大喜利を開催
● ハビタットとの交流開始。学生向けの勉強支援を中心に
● a-conゼミナール始動
- 2008.5 ● monthly a-con プロジェクト始動
- 2008.6 ● NPO法人化プロジェクト始動
● 第一回ハビタット勉強会(通称:ハビ研)
● a-conメンバー50名突破
- 2008.8 ● 「大人の林間学校」開催
- 2008.10 ● ヤングジュオンとのミーティング開始
- 2008.11 ● monthly a-con 第一号発刊
● JUONプロジェクトにおけるa-conリサーチの結果報告
- 2008.12 ● 第1回総会開催
NPO法人化へ向けた諸事項の説明、第一期役員を選出など



- 2009.2 ● シャンティ国際ボランティア会 (SVA)プロジェクト開始
夏 & 冬の募金ダイレクトメール制作(～2009年11月)
- 2009.2 ● 「ボランティアフォーラム2009」に参加。
● カタリバプロジェクト開始
- 2009.5 ● a-conPR活動チーム、amp (a-con media partners) 始動
● a-conメンバー100名突破
- 2009.6 ● Pikapika Project 始動
- 2009.7 ● 第1回オリエンテーション開催
- 2009.8 ● 第2回「大人の林間学校 (a-conキャンプ)」開催
- 2009.10 ● a-conイベントサポートチーム(仮) 始動
- 2009.11 ● a-conが、特定非営利活動法人として正式に認可される
● 社団法人 & NPOの会員制度とコミュニケーションの研究プロジェクト開始
- 2009.12 ● 第2回総会開催
前年度の活動報告、第二期役員の改選など



2009年の事業報告に際してのごあいさつに代えて

a-con代表 加形拓也

2007年に任意団体としてスタートして以来、たくさんのNPO/NGOをサポートさせていただくことで大きな喜びをいただき、a-conがなければ出会えなかった仲間とアイデアを出し合う面白さを味わいました。

2009年は、a-conの活動を継続的に続けてもっと多くの人と協働していくために、東京都認可の特定非営利活動法人となった新たなスタートともいえる年となりました。

そのような節目にあたり、改めて感じたのは、成功・前進の喜びを味わうためには、熱い思いよりも、それを実現する継続的な実務がなによりも大切だということです。熱い思いを語り合っ一時的な高揚を味わうことは誰にでもできますが、思いを実現するために、実務を積み上げていくことはたやすいことではありません。

* 実務といってもつまらないことばかりではなくて、突飛なアイデアをたくさんたくさん出す、ということも実務ですし、どうやったらみんなが楽しく実務を続けられるだろう、と考え、仕組み化することも実務です。

思いを実現するために毎日様々な実務をこなしていらっしゃるNPO/NGOの皆様、そして、超多忙な本業・学業の中で、それでもプラスアルファの価値を求めてa-conに関わっているメンバーのみんなへの尊敬の念でいっぱいです！
(あ、超多忙といえば俺だ！と思った方、いちいち名指しはしませんがそう、あなたのことです！)

よって私も新しいスタートに際し、実務的にa-conのサポート対象・活動内容・価値提供のやりかたをもう一度整理し、サポート先のNPO/NGOの皆様、一緒に活動してくれるメンバーの皆様へのメッセージとさせていただきます。

a-conがサポートする対象は日本でがんばるNPO/NGOです。
なぜなら、NPO/NGOは日本の元気の起爆剤となりうる存在であり、
その結果、世界にも元気を伝えられると考えているからです。

NPO/NGOは価値ある活動をしていても、
協力者・活動資金の不足に悩んでいるところが大半です。
日本におけるNPO/NGOの数は、法人として登記されたものだけでも40,000団体。
しかし、普段これらの団体に関わりなく生活している人に
「あなたの知っているNPO/NGO団体の名前を挙げてみて」と聞いても、
1つでも2つでも名前があがればいいほうでしょう。
このような人たちも、自分が普段感じている世の中の問題に対して、
共感できるやり方で取り組んでいる団体がある、ということを知りさえすれば、
サポートしてくれるかもしれません。

a-conはそのような価値ある活動を行っているNPO/NGOに対し、
その活動がより深化・充実したものになるようにサポートしていきます。
a-conの活動内容はNPO/NGOのコミュニケーションをサポートすることです。
なぜなら、日本のNPO/NGOは、もっと伝わればもっとパワフルになれるのに、
なんてもったいない！と感じているからです。

a-conのメンバーは、上から目線でアドバイスするだけでなく、一緒に働きます。
NPO/NGOの事務局と一緒に、「より良く伝えるにはどうしたらいいだろう」と
ともに考え、悩み、行動することで、サポートしていきます。

a-conの価値提供のやりかたは他に本業や学業を持つボランティアがチームをつくって行う、というものです。

なぜならチームワークで価値を提供できれば、NPO/NGOも、日本の勤労意識もより良く変わると考えているからです。

これまで余暇を利用して行うボランティア、といえば、単発的な単純労働のイメージが強く、NPO/NGOが継続的な成長を続けていくための助けには、必ずしもなっていない面がありました。かといって、日本のNPO/NGOの多くは、十分な数の専従職員を抱えられる資金もありません。そのギャップを埋めるために、a-conは、限られた時間しか提供できないボランティアが、継続的に価値を提供するためのやりかたを考え、実践していきます。

ひとりひとりでは限られた時間・スキルしか提供できなくても、NPO/NGOに継続的に価値提供するため、チームワークのやりかたを日々工夫しています。また、a-conに関わるボランティアメンバーにとっても、自分の本業とは別に、多様なバックグラウンドを持つメンバーと実務を行うことで、本業ではなかなか見えにくくなっていた自分の適性や、求めていた働き方への気づきがあるかもしれません。

多様なメンバーがそれぞれの限られた時間を集め、チームワークによって価値を提供していくというアプローチは、日本のNPO/NGOの中では、未踏の部分が多い分野です。サポート先NPO/NGOの皆様とのご協力とフィードバック、そしてオープンな議論、エネルギーな実務を通じてこれを実現していければと考えています。

【シャンティ国際ボランティア会 ダイレクトメール制作】

●支援団体概要:

正式名称「社団法人 シャンティ国際ボランティア会」。

「絵本を届ける運動」や「リサイクル・ブック・エイド」、アジア現地での学校・図書館建設などを通じて、アジアの教育・文化支援を行っているNPO。

●a-conのサポート概要:

年2回、支援者に対して送っている募金を呼びかけるダイレクトメール(DM)に関して、2009年の夏と歳末の制作をサポート。課題とターゲットの整理、制作方針決定、デザイン、コピーワークの実作業までを、一貫してお手伝いさせていただきました。その結果、夏・歳末共に、例年以上のレスポンス率や募金額を達成することができました。



【カタリバ パンフレット作成】

●支援団体概要:

正式名称「特定非営利活動法人 NPOカタリバ」。
 高校生へのキャリア学習支援を中心とした活動を行っているNPO。
 高校と連携し、高校生と大学生・社会人との出会いの場を設けることで、
 生徒と先輩のナナメの関係によるキャリア教育プログラムを実施。
 その他、大学生、法人、社会人向けの事業や、地域支援事業も展開中。

●a-conのサポート概要:

カタリバを応援、サポートしてくれる人を増やすためのコミュニケーションの仕方について、
 メッセージ内容の整理や、コミュニケーション施策の整理についてサポート。
 また、カタリバを紹介するパンフレットのリニューアルのお手伝いを行いました。

あなたを育てた社会、今度は、あなたが育ててください。

キッカケられる、ナナメの関係
KATARIBA

全国の高校生へ
自分と未来に向き合う機会を。

特定非営利活動法人 NPOカタリバ
〒164-0011 東京都中野区中央3-30-3
Tel 03-6316-6194
お問い合わせ窓口: hello@katariba.net
公式サイト: http://www.katariba.net/

出会いが、人を成長させる。

カタリバはそう信じ、人生の先輩との出会いを通じて、高校生に自分の夢と将来を考える「きっかけ」を提供する活動で、高校生のキャリア支援に取り組んでいます。

学力低下、いじめ、引き籠もり、フリーターの増加など、現代の子ども達を取り巻く環境には問題が山積しています。

高校生が将来に夢を抱きにくい現代で、改めて社会人として取り組むべきは、大人が一人ひとりの子どもたちと向き合っってじっくりと話し合うことだと思います。

励ましてもらう、叱ってもらう、褒めてもらう、夢をじっくり聞いてもらう...そんな瞬間が、子どもたちが自分の夢を取り戻す、大切な「きっかけ」になるのです。

日本中の高校生が、今より少し自分に自信を持ち、今より少し将来に夢を抱きながら進路選びをするようになれば、結果として「素敵な大人」が増えるはず。きっと。

ナナメの出会いの場を日本中の10代に届けるために、カタリバは走り続けます。

10代が元気になるれば、日本はもっともっと、元気になる。

今村 久美 (いまむら くみ)

株式会社山田商事
専任キャリア学習支援担当
03-6316-6194
〒164-0011 東京都中野区中央3-30-3
03-6316-6194
03-6316-6194

カタリバが提供する「ナナメの関係」

年齢が近く、先人般・利害関係の少ない関係であるお兄さん、お姉さんとの「ナナメの関係」の出会いを高校などの授業に組み込むことで、より多くの高校生に、自分自身と向き合う機会を提供しています。

親の関心
先生
先輩(先輩)
ナナメの関係
高校生
関係
関係
2,000円で、高校生1名にキャリア学習支援プログラムを実施できます

カタリバサポーター募集

NPOカタリバの活動を、気持ちとお金で支えてくださる「サポーター」を募集しています。カタリバのミッションに共感していたら、皆々たちの力を貸さないで、日本の社会のために高校生を応援したい方。ぜひカタリバサポーターとして、カタリバを応援してください。

サポーター特典

- ・年次報告書のご送付
- ・活動報告会、卒業報告会へのご参加(3ヵ月に1回程度)
- ・カタリバ大学(カタリバ直連セミナー)の受講権利
- ・その他各種イベントへ優先的にご案内

カタリバ経験者の人数推移
2010年10月現在

■経験者数
▲新規経験者

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16

経験者数、卒業生数(累計)は「カタリバ」を応援してもらえよう、私たちは活動しています。

「実は、今のしるん好きじゃない、前はもっと愛されて、でも、親があまり頑張らない。今日いろんな先輩の話を聞いて、やばいと思った。だから、まずは学校の授業を頑張ってみようと思っ。」「1日1回、授業の最後先生に報告するぞっ」っていい約束をした」 (高校2年生 女子)

こんな授業があるなんて、今日初めて学校に来て、よかった」 (高校2年生 男子)

「親にも先生にもともだちにも言えないことがある。今日、それを聞いてもらった。すごく楽になった。親にも話したらわかってもらえなかった」 (高校2年生 男子)

本当に自分が報いられるのか、何に何たのいのかをずっと考えていて、考えすぎてあてている間に大人になっちゃうんじゃないかって思ってた。でも、まずは小さな事でやってみよっかって思った」 (高校1年生 女子)

【monthly a-con】

- monthly a-conは、毎月のNPO／ボランティア関連のニュースや、NPOに役立つコミュニケーション情報、またNPOに関わる人の想いなどを取材し、マガジンとして毎月発行しているa-conの無料情報誌です。
毎号テーマを決めて、NPOに役立つ情報を発信しています。

- 発行日 : 毎月中旬発行。

- 発行部数 : 30部発行 & WEB上での無料公開



【a-conゼミナール】

NPOおよびa-conメンバーの知見・スキルアップのための勉強会・セミナーを不定期に実施しています。

●2009年度ゼミナール実績

2009.4.18 第1回ゼミナール

『日本のNPOの現状・課題分析と、コミュニケーションサポートによる成長へのアプローチ』

加形拓也氏

2009.5.16 第2回ゼミナール

『書く、伝える』

緒方太郎氏、涌井健策氏

2009.6.20 第3回ゼミナール

『いいレイアウトの見分け方』

林田全弘氏

2009.7.18 第4回ゼミナール

『PR入門』

小久保啓氏、栗林麻耶氏

2009.10.17 第5回ゼミナール

『NPOの悩み解決！ゼロから分かるリサーチ』

桜井香織氏

2009.11.21 第6回ゼミナール

『みんなが動く！Npoで使えるプロジェクトファシリテーション』

加形拓也氏

2010.1.16 第7回ゼミナール

『「イベント」からNPOの好循環をつくるコツ！』

谷本大樹氏 &
a-conイベントサポーターズ

2010.5.15 第8回ゼミナール

『会議の成果が出て、みんなが動く！
議事録からはじめる情報共有活性化のコツ』

吉戸 智明氏
(筑波大学計算科学研究
センター研究員)

- 正会員人数： 23人（2010年6月現在）
- a-conメンバー(メール会員数)： 約200名
- 理事： 加形拓也(理事長)、江藤隆文、清水龍生、山田裕一郎
- 監事： 伊藤康人
- 組織図： 以下参照

